

「死ぬまで健康」な長寿社会目指し

抗加齢ドック導入へ

今秋 食事、運動の個別指導も

老化の兆候や健康を損なう可能性のある要因をチェックする新しい健康診断「アンチエイジング（抗加齢）ドック」が今秋から、医療機関に導入

されることになった。日本抗加齢医学会（理事長、水島裕・聖マリアンナ医大名誉教授）が全面的に支援する。病気の早期発見や治療が目的の人間ド

ックと異なり、一人一人の体の状態を調べ、「病気になるため」の指導をするのが特徴。健康な長寿社会を実現する試みで、医療費の削減への奇

とも期待されている。ドックは、健康な人が元気に長生きすることを目的とする「アンチエイジング医学」の一環として米国などで始まってい

る。骨の強さを示す骨密度や筋肉、神経、血管の年齢、ホルモン検査などに加え、細胞やDNAを傷つけ老化させるフリーラジカル（活性酸素など物質を酸化させる分子）の検査を充実させる。フリーラジカルの発生量や細胞、DNAの損傷度は尿検査でチェック。ビタミンCやE、リコピ

ンなどフリーラジカルの影響を抑える「抗酸化物質」の数値は血液検査で調べる。検査後は食事やサプリメント（健康補助食品）の取り方、運動の仕方などを個別に指導する。費用は全額自費で、検査内容によって2万～10万円になる見通し。検査は同学会が認定する抗加齢医学専門医が実施する予定で、現在、学会が認定を進めている。検査システムは医療ベンチャー、バイオメーカーサイエンス社（大阪市）が用意し、9月から医療機関

に導入を始める。既に約50施設から打診があり、今秋までに100施設程度に拡大する見通し。同学会副理事長の吉川敏一（京都府立医大教授（内科学））は「個人の体の状況に応じた健康指導で病気のリスクを下げる事が出来る。死ぬまで健康で暮らすことは医療費の削減にもつながる」と話す。実施医療機関などの問い合わせはバイオメーカーサイエンス社（06・6943・1011）へ。【奥野敦史】